

人権アラカルト

すべての人が、幸せになる権利を持っています。

人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

世界一人道的と言われる刑務所

その刑務所があるのは、ノルウェー。受刑者一人ひとりに12平方メートルの個室が与えられ、鉄格子もない大きな窓からは外の景色が良く見えます。ベッド・薄型テレビ・ミニ冷蔵庫、DVDプレーヤーも備え付けられ、その設備はビジネスホテル以上です。恋人や配偶者と面会するための個室や、子どもと一緒に宿泊できる専用の部屋も準備されています。

とはいえ、そこは刑務所。受刑者の生活はどのようなのでしょうか、朝、部屋の鍵が開けられると、作業・学習棟に作業や勉強に行き、午後には居住棟に戻って、読書をしたり運動をすることができます。夜に居室に戻ると、外から鍵がかけられ自由に部屋からは出られないという生活です。ノルウェーには死刑も終身刑もありません。量刑も軽く、最高で禁固21年です。ですから、凶悪犯も原則、釈放されて社会へと戻っていくこととなります。

2011年、オスロの政府庁舎前で爆弾が爆発し、8人が死亡した事件が起きました。その事件の犯人はその後、約30キロ離れたウトヤ島に行き、キャンプに参加していた若者らを襲い、69人を殺害しました。一度に77人もの命を奪った犯人の受けた刑は、21年の禁固刑の判決なのです。収監を延長出来る制度もあるようですが、一度に77人もの命を奪った凶悪犯が、快適な刑務所で暮らし、社会に戻ってくるのです。命を奪われた被害者の無念さはもちろん、悲しみに包まれて、残された家族の心情はいかばかりでしょう。『反省』に重きを置き、犯した罪を償うため、厳しい生活を強いられる日本の刑務所ではなかなか考えられないことです。

では、なぜそこまで受刑者に優しいのでしょうか。答えは、受刑者の『更生』と『社会復帰』のためだそうです。ノルウェーでは「刑務所内と外の生活の差が小さいほど、服役生活から自由への移行が容易になる」と考えています。刑務所長は、「私たちの仕事は、良き隣人を育て、釈放することなんだ。」と取材記者に語っています。

かつて、受刑者に厳しい処遇をし、受刑者の逃走や刑務官が殺害されるなどの事件も発生し、再犯率が60～70%だったノルウェーですが、今では、再犯率が10%台後半から20%台前半になり、北欧諸国の中でも最低水準になっている事実には驚きました。

被害者・加害者支援の制度をはじめ、国の制度や価値観も異なる中、皆さんは、この更生と社会復帰の考え方について、どのように感じるでしょうか。